



統合型校務支援システムの更新

市立小・中学校では、デジタル技術の活用により教職員の働き方改革を進めることで、児童生徒に向き合う時間を確保するとともに、教職員の柔軟な働き方に対応し負担を軽減することを目的として、令和7年4月から新しい統合型校務支援システムを活用します。

「統合型校務支援システム」について、文部科学省は以下のように説明しています。

統合型校務支援システムとは、教務系（成績処理、出欠管理、時数管理等）、保健系（健康診断票、保健室来室管理等）、学籍系（指導要録等）、学校事務系など統合した機能を有しているシステムを指し、成績処理等だけでなく、グループウェア（組織内のコミュニケーションや情報共有を円滑化するシステム）の活用も含め、広く「校務」と呼ばれる業務全般を実施するために必要となる機能を実装したシステムです。（文部科学省「統合型校務支援システムの導入のための手引き」より）

燕市では、平成27年から、統合型校務支援システムを市立小・中学校に導入し活用しております。しかしながら、県内市町村間でシステムの統一がされていないことが課題となっておりました。そこで、県が主導し、県内市町村が共同利用できる利便性の高い統合型校務支援システムを導入することとなり、燕市では、令和7年度から新システムの利用を開始することにしました。

各校が統合型校務支援システムの更新に伴い、文書の電子決済ができるようになったり、児童生徒の成績や出欠席の状況などのデータを一元的に管理できるようになったりするなど、働き方改革が期待できます。市教育委員会では、今後も、デジタル技術の活用を推進し、教職員の働きやすい環境づくりに努めてまいります。

生成 AI の利用

文部科学省は、令和6年12月26日に「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン (ver2.0)」を公表しました。https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_02412.html

このガイドラインに基づき、市教育委員会では、資質・能力の育成、校務の効率化や質の向上を目的とし、必要な場面で学校が適切な生成 AI の利用を進められるよう、今後以下の取組を順次進めます。

- (1) 教職員が、以下の生成 AI を校務用 PC で利用できるようにする。
 - ・ Copilot (コパイロット) … Microsoft 提供のサービス
 - ・ Gemini (ジェミニ) … Google 提供のサービス
- (2) 中学校生徒が、以下の生成 AI を生徒用タブレット端末で利用できるようにする。
 - ・ Gemini (ジェミニ) … Google 提供のサービス
- (3) 生成 AI の効果的な活用、利用上の留意点等について研修の機会を設ける。
 - ・ 燕市教職員対象に「生成 AI 活用研修」を実施

第3回 ICT 活用研修

令和7年1月28日に、第3回 ICT 活用研修を行いました。ベネッセコーポレーションより、「ドリルパーク」の有効な活用方法について、情報提供をいただきました。参加者より、「新しい機能を知ることができ、とても勉強になった」「新しい機能を試してみたいと思った」等の意見をいただきました。動画と資料を燕市教職員限定 HP 「つばめつながる広場」に掲載しています。ご活用ください。